

第4回防災推進国民大会(ぼうさいこくたい 2019@NAGOYA)で「東日本大震災のアーカイブと教訓の活用・発信」を主催しました (2019/10/19)

テーマ：ぼうさいこくたい、災害、アーカイブ、教訓
 場所：名古屋コンベンションホール（愛知県名古屋市中村区）

2019年10月19日(土)～20日(日)に、愛知県名古屋市中村区の名古屋コンベンションホール等において、内閣府等の主催で「第4回防災推進国民大会(ぼうさいこくたい 2019@NAGOYA)」が開催されました。その中で当研究所は、国土交通省東北地方整備局の協力を得て、「東日本大震災のアーカイブと教訓の活用・発信」を19日午後に主催しました。

このセッションは、東日本大震災の被災の経験と復興に関する東北からの発信として、同震災のデジタル・アーカイブや教訓の研究を行ってきた当研究所の取り組みを報告するとともに、東北各地での教訓の活用・発信の取り組みも紹介し、南海トラフ地震懸念地域をはじめとする国内、さらに海外でこれら教訓を活かしていただく方法について、広く防災関係者の方々と情報交換、意見交換を行う、という趣旨で開催しました。

当研究所の丸谷浩明教授(人間・社会対応研究部門)が司会・コーディネーターを務め、登壇者は以下の通りです。

- 発表1 「東日本大震災のデジタル・アーカイブ、岩手津波伝承施設について」
 当研究所 柴山 明寛 准教授(情報管理・社会連携部門)
- 発表2 「東日本大震災の震災伝承ネットワーク等の取組について」
 国土交通省東北地方整備局 武藤 徹 環境調整官
- 発表3 「震災の語り部と教訓の海外発信について」
 当研究所 フルコ フラヴィア 助教(人間・社会対応研究部門)
- 発表4 「東日本大震災の「教訓」が伝わる・生きるために」
 当研究所 佐藤 翔輔 准教授(人間・社会対応研究部門)

冒頭の丸谷教授による趣旨説明に続き、柴山准教授が、東日本大震災のデジタル・アーカイブの取り組みと当研究所の役割、特に新たに開館した岩手県の津波伝承施設について発表しました。東北地方整備局の武藤環境調整官は、同局が中心に立ち上げた震災伝承ネットワーク及び3.11伝承ロードについて発表し、東北の被災地への訪問を呼びかけました。フルコ助教は、出身のイタリアと日本の災害の面での類似性と、東日本大震災の語り部の役割の重要性について発表しました。最後に、佐藤准教授は、東日本大震災の様々な教訓の活用について、被災地の各地方自治体の取り組みや教訓の活用方法に関する分析・研究の成果を発表しました。

その後、登壇者全員によるパネルディスカッションでは、それぞれの登壇者が今後の取り組みや名古屋の方々への呼びかけなどを行いました。

当日は約60名の市民、企業、研究者等の方々に参加いただき、東日本大震災の教訓がどのようにまとめられ、公表されているか、また今後どのように活かしていくべきかについて熱心にお聞きいただきました。なお、本セッションは、当研究所の国内連携委員会が準備・運営を行いました。



丸谷教授



柴山准教授



武藤環境調整官



フルコ助教



佐藤准教授



パネルディスカッション



会場の様子